



切迫したミサイルの脅威に備えましょう。

## 準備

- ・ 緊急備品キット（ファクトシート 2 参照）を用意しましょう。
- ・ 家族緊急計画（ファクトシート 2 参照）を作りましょう。
- ・ シェルターに利用できそうな自宅、職場、学校付近のコンクリート建造物のリストを作りましょう。シェルターになるのは、地下、中層階ビルの中階の窓のない中央エリアなどです。
  - ・ 放射性降下物から人を防護するための特別な施設でなくとも、放射性降下物退避シェルターとして利用できます。降下物から放射される放射能を吸収できるほど壁と屋根が厚く、高密度の（つまり、コンクリート製）の保護エリアならば利用できません。

## 緊急事態中

- ・ 公式情報に耳を傾け、緊急対応担当者の指示に従いましょう。脅威に関する既知の情報に基づいて、シェルターに避難するか、特定の場所に移動するか、特定の場所から避難するよう求められることがあります（ファクトシート 1 参照）。
- ・ 攻撃警報が発されたら、できればコンクリート構造の下か地下に身を潜め、指示があるまでその場に留まりましょう。
- ・ 付近のできればレンガまたはコンクリート製の建物を探し、建物内に入って屋外の放射性物質を避けましょう。
- ・ 家族と離ればなれになってしまった場合にも、その場に留まります。被爆地では、建物内が最も安全な場所です。その場に留まることが生死を分けます。
- ・ 当局から移動するよう指示されない限り、少なくとも 24 時間、その場に留まりましょう。

## 屋外で被爆した場合

- ・ 閃光や火の玉を見てはなりません。視力を失うリスクがあります。
- ・ 遮蔽物の影に隠れましょう。
- ・ 地面に腹ばいになって、頭を覆い隠しましょう。爆心地が離れている場合、爆風が到着するまでに 30 秒以上かかることがあります。
- ・ 爆心地から何キロも離れている場合も、できるだけ早くシェルターに避難しましょう。放射性降下物は風に何マイルも運ばれることがあります。距離、遮蔽物、時間という 3 つの防護要因があることを覚えておいてください。
- ・ 爆風の最中またはその後に屋外にいた場合、できるだけ早く身体を洗浄して、付着したかもしれない放射性物質を取り去りましょう。
- ・ 放射性物質が拡散しないよう服を脱ぎましょう。一番外側の服を脱ぐだけで、放射性物質の 90% を取り除ける場合があります。
- ・ できれば、汚染された衣類はビニール袋に入れて封をするか、口を結ぶかしましょう。ビニール袋は、そこから放射能が漏れてほかの人が汚染されないよう、人や動物からできるだけ遠ざけます。
- ・ 放射能汚染を除去できるよう、できれば石鹸と水を大量に使ってシャワーを浴びましょう。肌を擦ったり、引っ掻いたりしてはなりません。
- ・ シャンプーまたは石鹸と水で髪を洗いましょう。放射性物質を髪に固着させてしまうため、コンディショナーは使ってはなりません。
- ・ やさしく鼻をかみ、清潔な湿った布で瞼やまつ毛を拭きます。耳もやさしく拭きます。
- ・ シャワーを浴びられない場合、服に覆われていない部分の皮膚をワイプまたは湿った清潔な布で拭きます。

## 緊急事態後

- ・ どうすべきか、どこに移動すべきか、どこを避けるべきか公式情報に耳を傾け続けましょう。
- ・ 被害地域、「放射線障害」または「危険物」と表示された場所に近寄らないようにしましょう。放射線は目に見えず、耳にも聞こえず、臭いもせず、人間の五感では捉えられないということを忘れないでください。

## 次のことを忘れないようにしましょう。

### 次の点を忘れずに

**距離:** 放射性降下物の粒子からできるだけ離れましょう。多数階の建物の中階中央部にいるのが理想的です。平坦な屋根には降下物が積もるため、最上階にいてはなりません。最上階の1階下も良い選択とはいえません。

**遮蔽物:** 放射性降下物とあなたの間にある遮蔽物の素材が重く、密度が高いほど（厚い壁、コンクリート、レンガ、本、土）安全になります。時間があれば、放射性降下物が室内に入り込まないように、対応キットのビニールシートを利用して、ドアや窓、換気窓を覆いましょう。

**時間:** 降下物の放射能はかなり急激に低下します。やがては、核シェルターから出られるようになります。放射性降下物は、当初2週間、人体に対する最大の脅威となりますが、2週間後には、当初の放射能レベルの約1%程度に低下します。

**覚えておいてください:** 例え一時的なものにしろ、防護はまったくないよりあった方が良いです。遮蔽物が多く、距離が遠く時間が経てば経つほど、より安全になります。車で走行中に被爆した場合、路肩に車を止め、最寄りのコンクリート製のシェルターに避難しましょう。

### 子供が学校または託児所にいる場合

**学校の教職員は、緊急事態に対処する訓練を受けています。**

教師や職員には詳細な緊急計画の用意があり、緊急計画を緊急事態の前後および最中に実行します。教師や職員は、様々な種類の緊急事態に対処する訓練を受けています。教師は冷静さを保つことができ、学校の構造物も頑丈にできています。

**学校の建造物は安全です。**

すべての学校は頑丈に建てられており、建築基準に適合しています。当局は、定期的に学校を視察し、安全であることを確認しています。学校はとても安全なため、地域の緊急避難所として利用されることがよくあります。

**報道に耳を傾け、学校に電話をするのは止めましょう。**

学校に電話をすると学校の緊急対策が遅れるだけでなく、政府当局が学校の教職員と直にコミュニケーションできなくなります。ラジオ、ニュース、Facebook や Twitter を含むオンラインソースから情報を得ましょう。最新情報は、合同情報センターを通じて伝達されます。

**子供を迎えに来るよう指示があるまで、忍耐強く待ちましょう**

すぐに子供を迎えに行ってもなりません。あなたも子供も路上にいてはならず、できるだけ早く安全な場所に避難しなければなりません。子供は、路上にいるより学校にいた方が安全です。子供にとってもっとも安全なのは、緊急警報が解除されるまで学校に留まることです。警報が解除されたなら、子供の迎えに関する指示に従いましょう。学校には、誰が児童の迎えに来るかを記した緊急カードがあります。学校側から子供の引渡を拒否されるため、緊急カードに記載されていない人を子供の迎えにやってはなりません。

**子供から質問された場合**

お子さんから質問されたら、家族の全員がその時の状況を理解できるよう、できるだけ正直に答え、家族として現在の状況について話し合しましょう。

JIC の電話番号 (671) 475-9600/478-0208/0209/10.

Facebook、グアム国土安全保障省のホームページ、[www.ghs.guam.gov](http://www.ghs.guam.gov) を通じて JIC にアクセス出来ます。  
Twitter.com/ghsodc の最新情報に注意してください。